

(3) 社会科

① 目標の改善

ア 目標の示し方

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示した。

イ 「社会的な見方・考え方」とは

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」である。

ウ 「社会的な見方・考え方を働かせる」とは

前述の「視点や方法（考え方）」を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくことを併せて表現している。

② 内容構成の改善

ア 改善の視点（「問い」が見方・考え方を働かせる方向を方向付ける）

	視 点	問 い
空間的	分布、地域、範囲 (位置や空間的な広がり)	○どのような場所にあるか ○どのように広がっているか など
時間的	起源、変化、継承 (時期や時間の経過)	○なぜ始まったのか ○どのように変わってきたのか など
相互関係	工夫、関わり、協力 (事象や人々の相互関係)	○どのようなつながりがあるか ○なぜこのような協力が必要か など

イ 指導内容の充実

児童生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実を図る。

(目標に示した資質や能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習過程において育成される。)

小 学 校	中 学 校
学習の問題を追究・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させる。	課題を追究したり解決したりする、適切な課題を設けて行う学習過程を充実させる。

ウ 内容の主な変更点 ○加わった内容と変更となった内容

小3	○「市の様子の移り変わり」を3年生で学習することとした。 ○これまでの「昔の道具や暮らし」を改め、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具を調べる。等
小4	○「県の自然災害」の取扱を変更した。 ○「県内の特色ある地域」の事例に、「国際交流に取り組んでいる地域」を加えた。 ○「災害及び事故の防止」の事例として示されていた「風水害、地震など」を独立させて、「自然災害から人々を守る活動」として示した。等
小5	○「情報を生かして発展する産業」として、「販売、運輸、観光、医療、福祉などに関わる産業」を事例として選択することとした。等
小6	○「我が国の政治の働き」では、順序を改め歴史の前に政治を学習する。 ○「地域の開発や活性化」の取扱を変更した。等
地理	○世界の地域構成と日本の地域構成を統合し、「世界と日本の地域構成」とした。 ○世界の様々な地域の調査と身近な地域の調査を再構成し、「世界の諸地域」、「地域調査の手法」「地域の在り方」とした。 ○「領域の範囲や変化とその特色」の内容の一部を変更した。
歴史	○「歴史との対話」を新設し、歴史的分野の学習の導入として取り扱う。 ○「世界の古代文明」「ユーラシアの変化」「ヨーロッパ人來航の背景」「市民革命」の内容の一部を変更した。
公民	○「富国強兵」「殖産興業」「世界平和と人類の福祉の増大」の取扱を一部変更した。

③ 課題を追究・解決する授業の改善ポイント

ア つかむ段階の工夫

- ◇ 「～なのに、なぜ～」という逆説の問い等により、「なぜだろう」「調べてみたい」という意欲を高めるよう課題提示を工夫する。
- ◇ 結論を自分なりに予想させることで、課題が自らの問いとなり、主体的な学びへと誘わせる工夫をする。
- ◇ 『めあて』は本時の目標と整合した“～できる”の表現で、達成できたかを自己評価できるものにする。

イ 調べ・まとめる段階の工夫

- ◇ 追究・解決する課題が何なのか、また、何を調べるのかを明確に示す。
- ◇ 地図や統計、文書、絵・写真等の資料から読み取る視点を示す際は、教師が示すヒントではなく、解決の糸口となる友達の“気づき”を教室で共有する。
- ◇ 複数の資料を選択し、そこから分かることを比較・関連させることで、新しい考え方を形成したり、新たな知識を見いだしたり、それらと既習の知識と統合する深い学びへと誘う工夫をする。
- ◇ 調べた結果だけをまとめるのではなく、結果を基に考えてわかったことやまとめてわかったことを自分の言葉でまとめさせる。

ウ 考えを広げ深める段階の工夫

- ◇ 話し合う場面は児童生徒に委ねるのではなく、最初に、話し合う目的を明確に示し共有化する。
- ◇ 自分の言葉でまとめた結果を、資料等の根拠を示しながら説明させる。
その際の根拠の示し方としては、“どの資料を使ったか”だけでなく、“その資料からどう考えたか”の視点で互いの意見を交流させ、課題の追究・解決へと導く。
- ◇ みんなで協働して課題を追究・解決できるよう、聴き合い、受け止め合う姿勢や意見、考えをつなぐ発言を大事にする。また、新しい概念を形成したり、新たな知識を見いだしたり、それらと既習の知識と統合する深い学びのきっかけとなった発言に感謝する姿勢を教師が率先して示す。
- ◇ 児童生徒の“つぶやき”や“つまずき”を拾い、全員で解決したり説明したりする活動を通して、理解を深めたり、新しい概念を形成したり、よりよい考え方を見いだす学習を行う。
- ◇ 本時で追究・解決させたい課題から離れた考え方がある場合は、本時の『めあて』との整合について問い返し、話し合う目的を再度共有することで、全員を課題の追究・解決へと誘わせる。

エ 振り返る段階の工夫

- ◇ 学習課題を振り返って結論を自分の言葉でまとめ、他の児童生徒と話し合う。
その際、自分もつ知識に新しく得た知識を重ね、再構成した表現ができることを目指す。
- ◇ 本時の目標と整合する“まとめ”“振り返り”を、児童生徒の言葉も生かしながら板書する。
- ◇ 本時の学習内容を理解できたかを、基本的な問題で評価する。
- ◇ 自分の調べ方や学び方、課題解決への予想と結論について振り返らせる。